



国際ロータリー第 2790 地区 第 4 グループ

市原ロータリークラブ会報



第 2670 回例会 2020 年 2 月 22 日 (水) | SAA/ 木下会員 会報担当 / 川島事務局員

事務局 袖ヶ浦市椎の森 385 - 21 株式会社リプラス内 例会場 淡粋

- 点 鐘 篠田会長
- ソング 君が代 奉仕の理想 4 つのテスト
- お客様 千葉西 RC 海寶勘一理念研究委員長
松戸 RC 森田雅久 様
- 会長挨拶
皆様こんにちは。



本日は、第2790地区、理念研究委員会より海寶勘一委員長様、森田雅久委員様、ようこそ市原RCへ。地区では、理念研究委員会・地区研修委員会・RLI推進委員会のもと、昨年11月10日(日)『地区先達と語る「私のロータリー」の集い』と題し、土屋亮平PDGの講演会を実施されました。次回は、4月19日(日)に市原RCより白鳥政孝PDGの講演会が行われます。貴重な体験

談と心豊かなロータリー観と情熱を、傾聴できる機会です。会員皆、一人でも多くのご参加をお願い致します。後ほど、海寶委員長様には、ご挨拶の時間を作っていますので、よろしくお願い致します。

また、本日1名の新入会員をお迎えすることが出来ました。鶴沢勝好新会員です。後ほど入会式を行いますのでよろしくお願い致します。私は、毎月の第一例会で、ロータリー月間テーマについて話をさせて頂いています。

2月には「平和構築と紛争予防月間」です。これは「紛争予防と仲裁に関する、若者を対象とした研修の実施、紛争地域における平和構築の支援、平和構築と紛争予防または紛争解決に関連した仕事に従事することを旨とする専門職業人のための奨学金支援を強調する月間」です。

そしてもう一つ、2月23日はロータリー創立記念日です。ロータリー創立記念日である2月23日からの1週間は「世界理解と平和週間」とされており、これと相まって、2月の月間には、ロータリークラブが相互理解を通じて世界平和が達成されることを目指していること、そのために、平和の仕事に従事する熱意を持った人材を育成することを重要視していることが示されています。

2月の「平和構築と紛争予防」月間は、ロータリーが定める6つの重点分野であり、国際ロータリーが世界の中で、最も支援を必要とする人道的奉仕のニーズとして捉えている項目の一つとなっています。

今日、紛争や迫害によって住むところを失った人びとは何百万人もおり、紛争被害者の実に90%が一般市民で、その半数が子どもだと言われ

ています。また、世界で18歳未満の子ども30万人以上が少年兵として紛争に巻き込まれているとも言われています。現在、国際ロータリーでは、貧困、不平等、民族対立、教育や機会の欠如といった、争いの温床となる問題への取り組みのほか、紛争を抑止・仲裁するためのスキル研修や難民支援など、様々な平和活動にも積極的に取り組んでいる様です。

この分野で私たちができる活動としては、具体的には、ロータリー平和フェローシップの候補者を探したり、紛争の要因の解消に取り組むプロジェクトを計画したり、また理解と平和を推進するため海外のロータリークラブと友好を築き奉仕活動で協力するなどの活動が考えられます。平和構築と紛争予防は、確かにハードルの高い分野ではありますが、財団のグローバル補助金を活用して、クラブでも今後長期計画委員会などの議題の一つとして、積極的な検討を進める機会にしたいと思います。

そしてもう一つ、2月と言えば、この23日は私たちロータリアンにとって特別な日となっています。1905年2月23日、創始者のポール・ハリスは友人3人と最初にロータリーの会合を開きました。国際ロータリーは、この2月23日をロータリー創立記念日と定め、この創立記念日に合わせて、国際理解、友情、平和へのロータリーの献身を認識し、強調してほしいと呼び掛けています。

国際ロータリーは2月23日の記念日から始まる一週間を「世界理解と平和週間(2月23日~3月1日)」とし、世界理解と平和に関するロータリーの奉仕活動を強調しています。

創立115年、改めてポール・ハリスが抱いたロータリー創立への想いに心を馳せながら、これからのロータリーの夢を語り合ってはいかがでしょうか。

今年の10月には、東京ロータリークラブが誕生100年を迎えます。すなわち日本のロータリー誕生100年が目の前です。この節目の年に、「私たちのロータリーがこれからどうあるべきか」について皆様と語り合うことは、次の100年に向かってロータリーが進むべき道を探る絶好の機会となると思います。

暖冬と言われ移りますが、寒暖差が厳しくなっています。また、国内で新型コロナウイルス感染症の患者発生が複数確認され、心配ではありますが、会員の皆様、ご家族の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございます

- 委員会報告等 クラブ管理運営委員会 本郷委員長
奉仕プロジェクト委員会 野口委員長

本日のメインプログラム

理事会報告 結婚・誕生祝い

卓話者 理念研究委員会 海寶委員長
会員卓話 水澤 様

市原ロータリークラブ例会ミニ卓話 2020-2-5 地区理念研究委員会委員長 海寶 勲一

私たちロータリアンは、ロータリー精神の根幹である理念をもっと身近に親しみ、大切にすることを担っていると思います。理念は「大切なところがまえ」と理解してみると受け止めやすいです。ロータリーは基本理念として奉仕の理念やロータリーの目的、四つのテスト、五大奉仕や RI 標語等を思慮深く受け止めて、自己研鑽に反映できるように心がけることが肝心です。クラブ例会は人生修業の場、ロータリーは人づくりと先人は熱く語ってくれています。その為にも我々は、ごくごく自然体でロータリーを好きになり、信頼し合える仲間同士がもっと、有意義さを誇りあうことが大切な心構えになります。クラブ例会を通し、あるいは地区行事に参加し、切磋琢磨しあう環境は沢山あります。積極的に仲間との談義からは、心構え一つですべてがわが師になります。私たち地区理念研究委員会が企画している「地区先達と語る「私のロータリー」の集い」は、経験豊かなパストガバナーのお話に接していただき、体験された貴重なロータリー観や人生観に触れる中で、様々な教訓や示唆を受け取ってほしい願っています。人間としてロータリアンとして自己を鼓舞する機会は沢山あります。毎月新号を手にする「ロータリーの友」誌も貴重な修学の機会になっています。

「お金とマンパワーで大掛かりな人道的慈善奉仕活動し、職業スキルだけで行う奉仕活動の手法は、ロータリー理念の希薄化を憂います。ロータリアン一人一人がよって立つ理念を究め、精神的空洞を埋める役割こそが、日本の職業奉仕が存在する根拠なのです」この文章はロータリーの友誌の1月号に甲府北 RC の小林さんが寄稿された「100年をかけて育んできた日本の職業奉仕」の文章の一節です。見事にロータリーの理念を大切にすることを説いています。ロータリアンは職業人としての心を持って企業経営に専念し、日々の企業経営を通して色々と試行錯誤を重ねて学んでいます。クラブメンバーとは、信頼と友情を一層深め合い、尊重し合って活動をしています。仲間の交流を通して会員の生き方を学び、語り合う中でアイデアや知識の交換をし、自分一人では考えもつかないヒントを得ることが多々あります。謙虚になればなるほど、お互いに足らざることを補い合うこともできます。毎例会では仲間から学び、自己研鑽と切磋琢磨することから高い信用と深い善意の親睦が育まれます。人は善意をもってこそ、困っている人を見れば手助けをします。善意は実行するか又はしないかで価値が大きく変わり、実行しなければ単なる善意で終り、自負をもって実行すれば立派な奉仕になります。ロータリーの奉仕は「利己と利他の調和」をはかる人生哲学を説いています。私たちロータリアンは、常に世の為人の為に尽くせる豊かな心がけを涵養し、実践させる大切なビジョンを構築すべきでしょう。その為にも、ロータリー精神の理解を深めるロータリーの理念を至宝として理解させ、「ロータリアンたれ」と鼓舞し、ロータリーの大道を歩める喜びを享受し誇りあいたいものです。

新人卓話 水澤 伸浩

みなさまこんにちは。

昨年8月より入会させていただきました、有限会社豊島商事 水澤伸浩と

申します。

この度は新入会員卓話とゆうことですが、今まで人前でスピーチをすることなくすごしてまいりましたので大変緊張しております。

何分不慣れなものでお聞き苦しい点とう多々ございますが、何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

今回市原ロータリークラブの入会にあたりまして篠田会長、本田会員の推薦と、承認をいただきました皆様に感謝申し上げます。

並みですが自己紹介と会社説明をさせていただきます。

私は昭和47年2月6日生まれO型です。

家族構成は妻と子供2人(長女大学一年、長男中学3年)の4人家族です。父は東京都荒川区の出身で、母は市原市君塚の出身です。兄弟は男4人の長男です。

私は、市内の小学校、中学校、千葉市内の高校、短期大学を卒業後、東京の祖父の家から勤務先の会社へ通いました。

職種は専門商社で、勤め先では勉強の為、営業職を希望していましたが、配属は物流センターに数か月その後、財務部に配属され本来学びたい営業とはまったくかけ離れた部署に戸惑を感じましたが、そこで学ばせていただいたことが、のちにとっても勉強になりました。3年ほど勤めた後、実家に戻りました。

趣味ですが、スポーツはあまり得意ではなく小学校時代には泳ぐことが苦手でスイミングスクールに通ったおかげで、小学校6年生の部で代表になれるまで泳げるようになりました、中学では剣道部、高校では帰宅部とバイトにはげむ日々でした。

社会人になってからスキーをかじり、現在では8年前に始めたゴルフにどっぷりハマっています、平均90台半ばですが、先日初の70台をだせました、8年前までは仕事を趣味と言っていましたが、今では、ゴルフが一番の趣味です。ヘッドを変えたり、冬シーズン用にリシャフトしたりと道具も含め大変楽しんでおります。今年はまだ少しで子供の受験も終わり大分時間が取れるようになります、趣味のゴルフを思う存分楽しみたいと思っております。

弊社の事業内容につきましてですが、ウエス製造販売と工場で使用する間接副資材の販売をしております。

今回、卓話をするにあたりまして、創業や設立など今までの歴史をより知ることができました。私の曾祖父(水澤徳次郎)が明治45年4月に操業いたしましたのち祖父(水澤健治)が昭和22年3月に事業を継承、昭和33年に(有)豊島商事(としましよじ)を購入、父(水澤照二)が昭和44年4月に市原営業所を開設後、昭和57年4月に有限会社豊島商事(としましよじ)を設立いたしました。

現在、祖父も他界いたしました(有)豊島商事(としましよじ)は叔父に譲りました、叔父も埼玉県蕨市の現役のロータリアンでした。

昭和46年ごろ両親がウエス製造販売のかたわらジーンズショップトヨシマと言う衣料品の小売りを始めたそうです。当時、近隣には競合店は無くジーンズの追い風もあり毎日飛ぶように売れ白金店、五井店と店舗も拡大して面白い時代だったと聞きました。平成8年に実家に戻り両親と2番目の弟と4人で家業に専念いたしました。

平成9年に自宅兼会社が火災になりました。その後平成11年に現在の社屋を建設しました、現在では私もお世話になっていますユニクロさんが当時どんな勢力を伸ばしていたころで同業他社も廃業したりとしていた時期もあり衣料品を続けるかやめるか家族でよく話した結果本来本業はウエス製造販売でしたので、衣料品は作業服の納品販売を残しあとは撤退いたしました。

平成21年に2番目の弟は茨城県神栖市に同じ商売でのれん分けしました。

平成23年10月に父から代表を引き受け社長に就任しました。

現在では3番目の弟と社員10人ほどまで人を増やすまでまいりました。

最後にウエスについて簡単に説明いたします。

ウエスとは、機械類の油や汚れをふき取りきれいにする布でございます。

主に工場などで油ふきなどに使われる雑巾をウエスといいます。

ウエスという風変わった名前は、英語でくずやほろを意味する”Waste”が訛ってできたものだといわれています。しかし日本には昔から「雑巾」や「布巾」という呼び名があるのに何故「ウエス」などと呼ばれるようになったのでしょうか。

日本が明治の近代化を迎えた当時、西欧諸国では軍艦や鉄道などのメンテナンスに糸くずが使われていました。しかし産業革命前の段階にあった日本に糸くずはなく、そこでその代わりとして豊富にあったほろ（古布）を使うようになりました。しかし「糸くず」を意味する”Waste”という言葉はそのまま流通したので、やがてそれが訛って日本語化し「ウエス」となったといわれています。現在ウエスという言葉は広義で拭き物、あるいは汚れを取るために使うものともあります。ちょっと変わったところでは、駅のホームで汚物処理におがくずを使っていますが、あれも「おがくずウエス」と呼ばれています。これからのウエスは元々の意味でのウエス、すなわちほろ（古布）を原料としているものをいいます。

ウエスは大抵の場合一般の家庭から回収された衣料の中からウエスに適したものを選び出して作られます。 選び出されるのは一言でいえば「綿素材」ということになりますが、具体的な衣料の種類で申し上げますと、Tシャツ、肌着、シーツ、Yシャツ、ブラウス、綿スカート、綿ズボンなどになります。

これらを素材、色、厚みなどによってさらに細かく仕分けするのです。

このようにして選び出された衣料や布をわたしたちは「ウエス原料」と呼んでいます。

ウエス原料が選び出されたら、次にそれらを裁断します。 かつて裁断にはカミソリや鎌が使われていましたが、高度成長期ごろから電動裁断機が使われるようになりました。 このウエス用裁断機は日本で発明され、現在では世界中で裁断機が使われているそうです。

かつて日本人の衣料は和服が中心で、洋装が普及した戦後でも家の中では和服ということが続きました。 和服は糸をほどけば元の四角い布に戻るようにならされており、着古したものを仕立て直したり、雑巾として使ったりするのが非常に便利ようになっていました。 昭和40年代以降、国民生活が完全に洋服中心となると立体裁断である洋服をいかにウエスとして使いやすいうように平面に、しかも無駄なく裁断できるかということが課題となりました。 洋服は形状が極めて多岐にわたるので、洋服ごとに裁断の仕方が微妙に違ってきます。 こうした課題については各々のウエス屋さんが工夫を凝らし、独自の裁断方法を編み出してきております。 しかも拭き物として使うウエスは洋服についているボタン、ファスナーなどを取り除かなければなりません。 この作業を裁断しながら行ないます。 そうした諸条件を満たした上でなおかつ拭き物として使うのに適した大きさをなければなりません。 通常ウエスの標準的な大きさは30cm～60cm角です。 それはこの位の大きさが拭き取るのに一番使いやすいからです。

さらに一枚として同じ古着はありませんので、ウエスは都度内容の異なる原料から極力品質が一定するように調整を行わなければなりません。 この作業は丁度ワインやウイスキーのブレンダーと同じように、熟練と勤が頼りになります。 ウエスという布をただ切っただけのように思われがちですが、このように実は意外と職人技なのです。

次に一枚一枚細断されたウエスの包装です。 計量器の上でビニール袋に詰めていきます。 包装されたウエスは一袋2kgあり、5袋をまとめて10kgを一単位として結束され出荷されます。 このようにしてウエスは作られます。 簡単ではございますが以上で、卓話を終了させていただきます。

今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

■ニコニコ・ソーリー

海保委員長 地区理念研究委員会がお世話になっております。この度は卓話のお時間を頂きありがとうございました。

松戸RC森田会員 日頃より大変お世話になっております。また3年前のインターアクトでは西村会長・山本会長エレクトに多大なるお力添えを頂きました。改めてお礼申し上げます。

白鳥会員 理念研究委員会の海寶さん・森田さん遠路はるばるお越し下さりありがとうございました。今後のご指導宜しくお願い致します。

上野会員 海寶さん・森田さんようこそ市原へ、森田さんロータリー好きですね!お願いですが、私の事はそっとしておいてください(笑)

野口会員 市原中央高校インターアクトクラブのオーストラリア山火事への被災寄付にご協力をお願い致します。

水澤会員 卓話を聞いて頂きありがとうございます。

篠田会長・福原幹事 本日は2790地区理念研究委員会海寶委員長・森田委員ようこそ市原RCへ。新会員の鶴澤勝好さん入会おめでとうございます。これから良き仲間として一緒に仲良く活動をして行きましょう。

■誕生祝 始関会員 津留会員 伊藤会員 三宅会員 上野会員
安田会員 水澤会員

■結婚祝 福原会員 上野会員 加藤会員

■出席報告 前々回確定 56.7% 本日出席 35名
欠席 22名 本日出席率 67.3%

■点 鐘 篠田会長

淡粋

例会食事です。本日も美味しく頂きました。



本日司会 SAA 木下会員



篠田会長 会長挨拶



福原幹事 理事会報告



クラブ管理委員会 本郷委員長より
袖ヶ浦RCとの合同親睦ゴルフ大会と
合同例会について



奉仕プロジェクト委員会 野口委員長より
LAホストリビア被災寄付について 44000 円集まりました。
ご協力ありがとうございます。



推薦者本多会員より新入会員鶴澤様の紹介がありました。



新会員 入会式

(株) 新成工業 代表取締役鶴澤 様



理念研究委員会 海寶委員長ご挨拶



水澤会員 新会員卓話

